

熱中症予防

5つのポイント

1 高齢者は上手にエアコンを

高齢者や持病のある方は、暑さで徐々に体力が低下し、室内でも熱中症になることがあります。節電中でも上手にエアコンを使っていきましょう。
周りの方も、高齢者のいる部屋の温度に気を付けてください。

2 暑くなる日は要注意

熱中症は、暑い環境に長時間さらされることにより発症します。
特に、梅雨明けで急に暑くなる日は、体が暑さに慣れていないため要注意です。
また、夏の猛暑日も注意が必要です。湿度が高いと体からの汗の蒸発が妨げられ、体温が上昇しやすくなってしまいます。猛暑の時は、エアコンの効いた室内など、早めに涼しいところに避難しましょう。

3 水分をこまめに補給

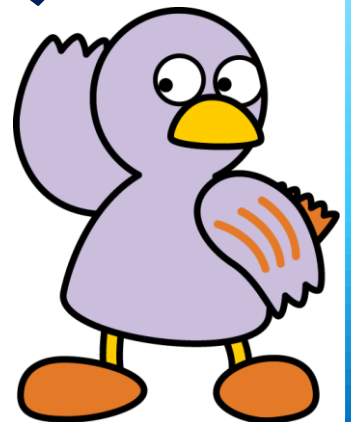
のどが渇く前に水分を補給しましょう。
汗には塩分が含まれています。大量の汗をかいたら、水分とともに塩分も取りましょう。ビールなどアルコールを含む飲料は、かえって体内の水分を出してしまうため水分の補給にはならず、逆に危険です。
また、高齢者は暑さやのどの渇きを感じにくい傾向がありますので、こまめに水分を補給しましょう。寝る前も忘れずに！

4 「おかしい！？」と思ったら病院へ

熱中症は、めまい、頭痛、吐き気、倦怠感などの症状から、ひどいときには意識を失い、命が危険になることもあります。
「おかしい」とと思ったら、涼しいところに避難し、医療機関に相談しましょう。

5 周りの人にも気配りを

自分のことだけでなく、ご近所で声を掛け合うなど、周りの人の体調にも気を配りましょう。
スポーツ等行事を実施する時は気温や参加者の体調を考慮して熱中症を防ぎましょう。



埼玉県のマスコット コバトン

※「熱中症予防5つのポイント」は、埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター、さいたま市立病院救急科の協力をいただいで作成したものです。

こんな症状があったら医療機関に相談しましょう

軽 めまい、立ちくらみ、筋肉痛、汗がとまらない

中 頭痛、吐き気、体がだるい（倦怠感）、虚脱感

重 意識がない、けいれん、高い体温である、
呼びかけに対し返事がおかしい、
まっすぐに歩けない

お近くの医療機関が
分からない時は

埼玉県救急医療情報センター
(365日、24時間対応)

受診可能な医療機関を案内しています。
(歯科・精神科は案内していません。)

048-824-4199
(良い救急)

熱中症かもしれないと思った時には

意識の確認

意識がはっきりしない
反応がおかしい時

すぐに救急隊の要請をする

救急隊到着までの間

涼しい場所へ避難させる

衣服を脱がせ、身体を冷やす

医療機関に搬送する

意識がしっかりしている時

まず、医療機関へ相談

自宅等にいる間

涼しい場所へ避難させる

衣服を脱がせ、身体を冷やす

自力で水が飲めるか

飲めない、
むせてしまう場合

むせずに
飲める場合

水分・塩分を補給する

症状が改善しない場合



詳しくは、WEBで

埼玉県熱中症

検索